

## 自己評価報告書(最終報告)

報告者

国際教育コース／石坂 広樹

## ■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

## I. 学長の定める重点目標

## I-1. 教育大学教員としての授業実践

本学の目的は、豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し、学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには、教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が、学校現場の実践と関連性が保たれている必要がある。あなたは、教員養成大学の教員として、本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか、これまでの取り組み状況を総括し、具体的に示して欲しい。

## 1. 目標・計画

国際教育コースでは、途上国の教育現場で必要とされる教授法や授業計画の策定・評価の方法について学生に指導することがコースの根幹目標となっている。よって、担当する授業ではなるべく具体的な授業実践に活用できる技術・手法について取り上げるとともに、学生自身による授業計画の実践・模擬授業の実施をなるべく多く実施させることを目指す。

## 2. 点検・評価

後期授業『国際教育IT活用演習』・『国際教育教材開発演習I』においては、全ての学生が模擬授業を実施し、様々な角度からアドバイス・指導を行った。また、授業の一環として附属小学校にて授業観察・英語授業支援を行うことができ、当初予定していた以上の活動・成果を得ることができた。

## II. 分野別

## II-1. 教育・学生生活支援

## 1. 目標・計画

学生の多くが留学生であるとともに教育省職員・教員経験者である。留学生の母国によって教育現場のニーズは様々であり、一斉授業だけではそれらのニーズに十分に応えることは難しいと考えている。よって、担当授業外においても各学生の学習・研究相談に積極的に対応するのみならず、必要であれば、分野・テーマ別の個別指導も行っていくものとした。

## **2. 点検・評価**

前期同様後期においても、教育研究・調査に必要となる統計学・ICT活用の手法について、個別に学生に指導することができた。よって当初想定した目標を達成したものとする。

## **Ⅱ－2. 研究**

### **1. 目標・計画**

これまでボリビア・シエラレオネにおいて科研費等を活用した教育関連データの収集を行ってきた。よって、本年度は同データの分析を進め、本年度中に学会発表や論文提出につなげるような論文作成を完了することを目標とする。

また、同データに関連した更なる研究を推し進めるために来年度の科研費の申請を行うものとする。

## **2. 点検・評価**

平成24年度若手研究Bに申請書を提出できた。また、これまで入手したデータの分析を鋭意すすめているところ、今年度中に論文の素案が完成することを予定している。

## **Ⅱ－3. 大学運営**

### **1. 目標・計画**

本年度より着任したところ、担当する委員会において積極的な役割を担っていくよう尽力することを目標とする。

## **2. 点検・評価**

学術研究推進委員会に所属し委員会会議に積極的に参加している。また、所属する国際教育コースと教員教育国際協力センターのHPの再構築・更新を担当し、一新するだけでなく、掲載事項についても発展的に増加・多彩化を図ることができた。よって、当初の目標を達成したものとする。

## Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

### 1. 目標・計画

これまで、JICAの公示案件を落札したり、本邦研修の講師を担当した実績があるところ、本年度においてもJICA関連の事業に積極的に参画していく。  
また、教育支援講師・アドバイザー派遣事業に登録し、依頼があれば積極的に参加していく。

### 2. 点検・評価

中間報告以降においても、附属小学校においてLFT講師を勤めるだけでなく、ユネスコスクールへの加盟を支援するために藍住町教育委員会に赴きセミナーを開催したり、学内においても計4回の同セミナーを開催し、徳島県内の教員へのレクチャーを行った。JICAの研修についても、2つの研修のICT教育・アクションプラン作成にかかる講師を務めた。よって、当初の想定以上の数の活動を実施し、想定以上の成果を得ることができたものとする。

## Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)